

歩道橋損傷点検は3日後

国交省「落下恐れ後に把握」

白州の国道20号

撤去終え被害届提出へ

北杜市白州町下教来石の国道20号に架かる歩道橋の橋げたに損傷が見つかり、落下する恐れがあった問題で、国土交通省は11日の段階で大型ダンプカーの荷台などが歩道橋に衝突した可能性を把握していたにもかかわらず、点検を3日後の14日に行っていた。国交省は「当初は案内標識だけが壊れ、橋げたが損傷しているとは思わなかったため、すぐに点検しなかった」と釈明するが、専門家からは「危険性は予測でき、対応に不備があった」との指摘が出ている。国交省は15日に歩道橋を撤去し、通行止めを解除。付近の住民からは「結果的に危険な歩道橋を放置した責任は重い」との批判も上がっている。(清水一士、宮川祐一)



分解した歩道橋を搬出する作業員ら
—北杜市白州町下教来石



損傷した歩道橋—北杜市白州町下教来石(国土交通省甲府河川国道事務所提供)

国交省甲府河川国道事務所によると、国交省が委託する維持管理業者が11日午後1時ごろ、歩道橋に設置されている案内標識に大型ダンプカーの荷台などがぶつかった可能性があり、損傷している状況を確認。事務所は報告し、標識を撤去した。事務所職員は同日、現場を確認しなかった。事務所は3連休明けの14日朝、業者から提出された報告書と写真を確認。歩道橋自体が損傷している可能性があるとして、職員が現地で点検したところ、橋げたに亀裂が走るなど著しい損傷が見つかり、落下する危険性があることを確認。事務所は報告し、標識を撤去した。事務所職員は同日、現場を確認しなかった。

とが初めて分かったという。事務所の松沢尚利副所長は15日の取材に「11日の段階で橋げたに問題が生じているとは思わなかったが、結果として点検が遅れたことは申し訳ない。維持管理業者と連携して迅速に問題を把握できるよう取り組んでいきたい」と話した。これに対し、山梨大地域防災・マネジメント研究センターの鈴木猛康センター長は「案内標識に異常があれば、歩道橋自体の安全性を確認するのは当然の危機管理行為。対応に不備があったと言わざるを得ない。国交省は維持管理業者とともに危険を迅速に把握できる体制の見直しを行うべきだ」と指摘する。住民や利用者からも点検の遅れを疑問視する声がある。近くに住む20代女性は「危険性は11日の段階で分かったはずで、迅速に撤去すべきだった」と指摘。国道20号を通勤路としている小淵沢町の会社員清水紀彦さん(56)は「中央自動車道笹子トンネルの天井板崩落事故以降、公共インフラの安全性が叫ばれていた。なぜ迅速に対応できなかったのか」と批判した。事務所は14日夕方から付近を通行止めにし、15日朝までに歩道橋を撤去した。大型ダンプカーの荷台などがぶつかった可能性があるとして、近く北杜署に被害届を提出する方針。